

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第19回 東北はエネルギーの宝庫



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

ある秘湯での経験

昨年冬に、秘湯と言われる、ある温泉地に行ってみた。というのも、私は色んなところに行った体験を、色んな人に話してしまうからだ。私の話を聞いた人は、大抵「では、〇〇も良いですよ」とお勧めスポットを紹介してくれる。そうすると、また行きたくなるのだ。

そうして、訪れたその温泉地。ここは、近くに地熱発電所があるのだ。外気が氷点下なのに、お宿のお部屋に通されたところ、お部屋がとても暖かいのだ。というよりも、若干暑め(笑)。仲居さんの説明によると、近くの地熱発電所の蒸気を使ってお部屋を暖めていて、細かい温度調節はしていないらしい。このため、「お部屋が暑い時には、窓を少し開けてください」とのことだった。

このような経験は初めて。開けた窓を閉めてからしばらくすると、若干暑くなってくるのだ。なので、仲居さんのご説明のとおり、少し窓を開けていると、外気は氷点下なのに、お部屋は極めて快適な温度となるのだ！

暖房で、温度の「足し算」しか知らなかったのに、温度の「引き算」があるというのは、驚き。

そして、地熱発電所を調べてみると、火山や地熱地域の分布から、東北と九州に集中しているのだ。

また、この温泉地の近くには、今は閉山している硫黄鉱山の松尾鉱山資料館もあるのだ。そこにお邪魔すると、その鉱山の歴史や硫黄の用途の説明パネルが設置されている。硫黄の用途は、合成繊維、製紙、農業、肥料、化学薬品、染料、火薬など、だったらしい。だが、その後、環境問題を受けて、石油精製時に硫黄を回収するようになってからは、回収硫黄に押されるようになったとのこと。

そして、驚いたのは、かつての硫黄鉱山のあった場所。その資料館に説明パネルがあったのだが、なんと、北海道、東北、そして群馬県、九州に集中しているのだ。

当然のことだが、地熱発電所と硫黄鉱山の地域がほぼ一致している。正しく、地熱も硫黄も「大地の恵み」なのだ。

東北地方の再生可能エネルギー発電

そこで少し調べてみた。そうすると、東北地方は再生可能エネルギーを使った発電量のウエイトが高いのだ。地熱以外では、太陽光、水力、風力、バイオマス。

東北地方は、他の地域よりも相対的に日照時間が短い、太陽光発電の施設を設置する場所を確保しやすい。もちろん、周辺地域との調整は必要だ。

また、水力発電もさかんである。全国で最初に水力発電が行われたのは仙台市だし、今も水力発電のウエイトが高い地域だ。

加えて、東北地方では風力発電の開発が進んでおり、最近では洋上浮体式も計画されている。

そして、バイオマス発電。東北地方では、木材を調達しやすいほか、観光施設と連携する取り組みも行われている。

このように、東北地方では再生可能エネルギーを使った発電が盛んなのだ。そして、人間が経済活動や生活を送るためには、エネルギーを確保することが大事だ。

もちろん、私も東北地方を巡ることによって、エネルギー(活力)を大いにもらっています！(笑) 皆さんは、いかがですか？

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任